

読みながら、新しい風を感じます

「PTA News」、「YUKO TIMES（出版委員会）」、「教育後援会だより」、「さほこ（生徒会誌）」、「図書館報」が出来上がりました。それぞれの発行物を読みながら、いわき湯本高校という「新しい風」を感じます。



下足箱をボランティアで掃除する3年生が・・・ありがとうと言ってもらえる生徒。ブラボー！





↑ 美術の授業で制作された作品が展示されています。





↑ 日本文化部華道班による作品です。春を感じます。

※「図書館報」より

<巻頭言> 「青春」(サムエル・ウルマン)といわき湯高生

1 はじめに一青春と新しい風

青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。

薔薇の面差し、紅の唇、しなやかな手足ではなく、たくましい意思、豊かな想像力、炎える情熱をさす。

青春とは人生の深い泉の清新さをいう。

サムエル・ウルマンの有名な詩「青春」の一節を、いわき湯本高校の生徒に置き換えれば、次のようになるでしょう。

青春とは、「ありがとう」と言える・言ってもらえる新しい学校づくりを通して、校訓「自立」「友愛」「創造」という三つの力を身につけ、地域を支える核となって活躍する人となり、一人ひとりの夢を実現する「新しい自分」づくりにつなげようとする心の持ちかた、つまり、「いわき湯本高校」という「新しい風」を吹かせようという心の持ちかたを言う。

以上を踏まえ、いわき湯本高校として最初の一年を振り返ってみましょう。

2 青春と部・委員会活動

部・委員会活動については、水泳部、吹奏楽部、写真部、家庭クラブ、ヨット競技が全国大会出場、陸上競技部、剣道部、サッカー部、テニス部が東北大会出場を果たしました。栄冠に輝いた部活動・委員会の頑張りを大いに称えたい。県大会では、運動部、文化部とも大いに活躍し、その頑張りは地域も大いに盛り上げました。また、委員会活動についても、各委員会とも校内外の活動で頑張りを見せました。

遠野校舎の仲間と、友愛の心で力を合わせながら、サッカー部や合唱部などが大会やコンクール等で活躍し、生徒会も文化祭において震災学習による交流活動を発表しました。部・委員会については、文化祭を大いに盛り上げ、地域のイベントに積極的に出演するだけでなく、運営ボランティアとして参加するなど、地域に貢献する活動もしっかり取り組みました。

3 青春と学校行事等

学校行事等については、始業式、開校式、文化祭には遠野校舎の生徒も集いました。いわき湯本高校として最初の入学式を行い、東北大会壮行会や進路講演会では、久しぶりに全校生が一堂に会しました。東北大会壮行会は二回開き、新しい校歌もみんなで歌いました。

昨年度、コロナ禍のため思うように実施できなかった学校行事についても、感染症対策との両立を図るという方針のもと、文化祭「湯の泉祭」や球技大会については内容変更や規模縮小等をしながら実施し、修学旅行や遠足などについては予定通り実施することができました。

うまくいかなかったことやトラブルになったこともあったでしょう。つらく、悲しいこともあったでしょう。涙もあったでしょう。しかし、ピンチはチャンス。さまざまな困難に向き合い、一つ一つ乗り越えていく中で、喜びや楽しさ、達成感や一体感などを味わったのではないのでしょうか。それが成長するという、大人になるということです。

いわき湯本高校という新しい風を吹かせたい。そういう思いで、学校一丸となってさまざまなことに取り組んだ結果、コロナ禍のため止まっていた時計の針が再び動き出したかのように、部活動・委員会活動や学校行事などで学び舎が華やいだ、そういう一年だったと思います。

4 青春と学力向上・進路実現

学力向上・進路実現については、三年生が、日々の授業を中心に、地域を学びのフィールドとした探究学習、課外や模試、面接・小論文・作文指導、出前講座などにしっかり取り組み、進学・就職という、それぞれの進路実現に向けて、着

実に努力を重ねました。目標実現に向けて頑張っている姿、一つ一つ栄冠を手にしていく姿は、二年生にとって一年後の、一年生にとって二年後の、自分たちのあるべき姿であり、この意味において、三年生の真剣さは、二年生・一年生のロールモデルとなりました。進路実現に向けた情熱の炎は、先輩から後輩のハートに受け継がれたと信じています。

5 青春といわき湯高生

いわき湯本高校としての最初の一年、生徒一人ひとりが勉強を大切に、部活動・委員会活動や学校行事などに青春の汗を流し、人間性を磨き、よく頑張りました。生徒一人ひとりの頑張り・奮闘努力、青春の汗と涙が、いわき湯本高校という新しい学校の歩み・伝統をつくりました。

青春を生きるいわき湯高生に対し、「ブラボー！」

今、いわき湯本高校という「新しい風」が吹いているのを感じます。これからも「新しい風」をさわやかに吹かせたい。そのためにも、いわき湯本高校の生徒一人ひとりが「新しい風」を吹かせようという心の持ちかたを大切に、青春時代を充実したものにすることを期待しています。

6 まとめー青春と輝く未来

「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う」と語るサムエル・ウルマンの詩は、いわき湯高生にとって、青春を生きるヒントになると信じています。

「ブラボー！」と言える青春時代でありますように。輝く未来に向かって頑張れ、いわき湯高生。